

令和6年8月8日

佐賀市教育委員会

第1回教育委員会評価委員会

参考資料 重点事業の概要

施策No.	重点事業名	説明課	ページ
施策1	学力の向上と学習指導の充実	学校教育課	P1
	いじめや問題行動対策の充実		P2
	不登校等の対策の充実		P3
	特別支援教育の充実		P4
	コミュニティ・スクール推進事業	教育総務課	P6
	GIGAスクール構想実現に向けた教職員の資質・能力の向上	学校教育課	P7
	休日部活動の地域移行推進	教育総務課	P9
施策2	図書館大規模改修事業	図書館	P10
	電子図書館システム試験導入事業		
施策4	子どもへのまなざし運動の推進	社会教育課	P15

2-1 学力の向上と学習指導の充実

令和5年度 事業実績

項 目	内 容																						
事業概要	学習指導要領で求められる「資質・能力」を育成するために、重点事項として「教師の資質・能力の向上」と「校内研究の充実」を掲げ、学習指導の工夫・改善や学習環境の充実を図ります。																						
事業実績	(1) 指導力向上に向けた研修会の開催 ・佐賀市教員セミナー「四次元ポケット」：年8回開催。 ・初任者研修会：7月に開催。内容：佐賀市教育振興基本計画、服務等 (2) 研究指定校委嘱事業 ○計画的に学校への研究を委嘱し、学習指導要領の理念に沿った研究を行い、授業公開することで全市的な指導力の向上を図った。 ・諸富北小学校 表現するおもしろさを実感し、主体的に学ぶ学習指導の研究 ・城西中学校 主体的・対話的に学びを深める生徒の育成 (3) 教育研究所運営事業 ○佐賀市教育研究所において、「国語部会」「算数・数学部会」「外国語部会」を立ち上げ、研究を深めるための研修を重ねた。また、授業研究会を実施し、研究紀要にまとめ、研究成果を「情報教育推進リーダー研修会」において公開し、各学校で研修会を実施してもらうことで、教師一人一人の授業力向上を図った。 <table><tr><th>部会名</th><th>顧問</th><th>所員</th><th>合同研修会</th><th>部会別研修会</th><th>授業研究会</th></tr><tr><td>国語部会</td><td>1人</td><td>6名</td><td rowspan="3">2回</td><td>2回</td><td>1回</td></tr><tr><td>算数・数学部会</td><td>1人</td><td>6名</td><td>3回</td><td>1回</td></tr><tr><td>外国語部会</td><td>1人</td><td>6名</td><td>2回</td><td>1回</td></tr></table> ○個人研究 5名参加。 (4) 外国語指導助手派遣事業 ・英語指導助手（ALT）を小学校（3～6年生）及び中学校に12名配置した。 ・学級担任を英語面でサポートしたり、生きた英語の提供や児童生徒のコミュニケーション意欲や学習意欲を高めたりする等、授業の質の向上を図った。 ・英語指導助手は、定期的に研修を実施し、分かりやすい対話モデルや学んだ英語を使えるコミュニケーションの相手として、適切に業務を遂行することができた。 ・派遣業者は定期的に学校訪問を実施しており、その結果(英語指導助手の勤務状況等)については市教委が報告を受けている。	部会名	顧問	所員	合同研修会	部会別研修会	授業研究会	国語部会	1人	6名	2回	2回	1回	算数・数学部会	1人	6名	3回	1回	外国語部会	1人	6名	2回	1回
部会名	顧問	所員	合同研修会	部会別研修会	授業研究会																		
国語部会	1人	6名	2回	2回	1回																		
算数・数学部会	1人	6名		3回	1回																		
外国語部会	1人	6名		2回	1回																		
事業課題	○ 学習指導要領の理念に沿った学習指導の工夫・改善を図るために研修会や教育研究所を運営しているが、参加する教員が多忙のために運営が難しい場合がある。現場の実態を把握し、ニーズに応じた運営を工夫して行い、学力向上につないでいく必要がある。																						

[基本事業6]いじめや問題行動対策の充実

6-1 いじめや問題行動対策の充実

令和5年度 事業実績

項 目	内 容
1) いじめの認知件数 及び解消数	令和5年度のいじめの認知件数は、小学校895件、中学校304件の計1199件（前年比137件増）である。そのうち、解消したものが小学校784件、中学校260件である。残りのほとんどが、いじめの認知から3か月未満のため、解消取組中である。
2) いじめ防止基本方針に基づくいじめ 対策の充実	佐賀市いじめ防止基本方針に基づき、学校への指導や関係機関との連携を通して、いじめの未然防止や早期発見、解決を目指している。佐賀県いじめ防止基本方針が改定されたため、佐賀市いじめ防止基本方針も見直しをした。
3) 学校問題サポート 事業	学校問題（問題行動・いじめ・不登校・体罰・トラブル等）は、年々多様化、複雑化しており、学校はその対応に苦慮している。ベテランの教職員の退職に伴い、若手の教職員も増え、経験不足もあり、もはや学校だけで解決できない問題も生じてきているのが現状である。 このため、関係機関や専門的分野との連携を図り、学校だけでなく教育委員会全体で対応する体制を整え、総合的、効果的な問題解決を図るとともに、通常の危機管理として問題に対応する能力の向上を図る。
4) いじめ・いのちを 考える日	全校や各学級での教師の講話、児童会や生徒会を中心とした自主的な取り組みなど、毎月1日に各学校で実施した。平成30年度から令和4年度の活動実績を学校教育資料室に掲載し、各学校での取り組みに生かしている。令和5年度の活動実績についても、各学校の取組を学校教育資料室に掲載した。

[基本事業 7] 不登校等対策の充実

7-1 不登校等の対策の充実

令和5年度 事業実績

項 目	内 容
1) スクールカウンセラーの配置	佐賀市立中学校全18校へ2, 854時間配置した。 生徒・保護者・教職員のカウンセリングが1, 745件、生徒・保護者・教職員対象の講話や研修会が108回行われた。
2) 佐賀県スクールカウンセラーの配置	佐賀市立全小学校35校に2, 240時間配置した。 児童・保護者・教職員のカウンセリングが2, 018件、児童・保護者・教職員対象の講話や研修会が89回行われた。
3) サポート相談員の活用	不登校児童生徒の家庭を訪問して相談活動を行い、不登校児童生徒やその保護者を孤立させないように関わった。また、情報を学校と共有し、担任の不登校対策のサポートを行った。 6名の相談員が212名の児童生徒及び保護者を対象に、訪問活動や訪問しての面談など計4, 367回の支援を行った。
4) 教育支援センター「くすの実」	心理的要因により登校できない状態にある児童生徒に対して、多様な学びの場として、社会的自立を促し、集団生活に適應する力を育むことを目的として設置している。 正式通級53名、面接・見学・体験60名に教科学習、体験活動、教育相談などを行った。
5) 別室対応支援員の配置	22名の別室対応支援員を小中学校22校に配置し、相談室等別室で学習支援を行ったり、学校の依頼に応じて家庭訪問を行い、登校の援助を行ったりした。計305名の児童生徒に対し、別室で12, 049回、教室で1, 693回の対応や支援を行い、221回の家庭訪問を行った。
6) ICT学習支援の活用	ひきこもり状態が続いている児童生徒に対し、ICT学習を活用して生活空間を広げるための訪問支援活動を行った。訪問の際は、児童生徒の悩みや不安など集団への不適應を起こしている要因の緩和を図り、児童生徒の社会的自立を目指して個々の状況に合った支援を行った。 小学6年生3名、中学1年生1名、中学2年生6名、中学3年生7名、計17名の児童生徒の家庭に計341回訪問し、対応や支援を行った。
7) 自己肯定感を高め学校生活への意欲や自信をもたせる取組	不登校未然防止のため、各学校において、学校行事や授業参観、授業中など様々な場面で、一人一人の努力や成長、貢献を具体的に承認し、勇気づけるメッセージを伝え合う活動が行われた。児童生徒同士、教師や保護者から承認してもらうことで自己肯定感を高め、学校生活への意欲や自信をもたせる取組を行った。

〔基本事業 8〕 特別支援教育の充実

8－1 特別支援教育の充実

令和5年度 事業実績

項 目	説 明
事業目的及び内容	市立の小中学校に学校生活支援員を配置し、発達障がい等により特別な支援を必要とする児童生徒に対し、個々の特性に応じた支援を行った。特別支援学級支援員を配置し、特別支援学級に在籍する児童生徒のトイレ、衣服の着脱、食事などの必要な支援を行った。ひまわり相談室には発達障がい児相談室支援員を配置し、発達障がいがあることから学校における支援が必要となる児童生徒を対象として、本人及び保護者、学校関係者等を交えた相談業務を行った。医療的ケアを必要とする児童生徒を支援するために、小中学校に看護師又は准看護師を派遣した。
配置校及び配置人数	【学校生活支援員】 1校当たり最大4名で、81名配置。 配置の内訳 … 小学校30校、中学校12校 【特別支援学級支援員】 1校当たり最大3名で、43名配置。 配置の内訳 … 小学校23校、中学校7校 【子どもアシスタント】 1名配置。 配置の内訳 … 小学校1校 【発達障がい児相談室支援員】 ひまわり相談室に3名配置
トータルコスト	特別支援教育推進事業＋発達障がい児相談室運営事業＋医療的ケア児支援事業 令和4年度 … 総額245,819千円 令和5年度 … 総額280,344千円
実 績	○学校生活支援員が支援を行った児童生徒数 令和4年度 … 小学校331人、中学校82人、合計413人 令和5年度 … 小学校338人、中学校87人、合計425人 ○特別支援学級支援員が支援を行った児童生徒数 令和4年度 … 小学校382人、中学校7人、合計389人 令和5年度 … 小学校521人、中学校67人、合計588人 ○ひまわり相談室における各種相談の延べ相談回数・人数 令和4年度 … ガイダンス相談（46回・62人）個別相談（28回・9人） 電話相談（9回・9人）検査実施（137回・202人） 令和5年度 … ガイダンス相談（53回・69人）個別相談（15回・20人） 電話相談（15回・15人）検査実施（159回・221人） ○医療的ケアを行った児童生徒数 令和4年度 … 小学校2人 令和5年度 … 小学校2人
評 価	【学校生活支援員】（学校の管理職等の評価） A 大いに役立っている … 212人 B 役立っている … 0人 C あまり役立っていない … 0人 D 役立っていない … 0人 【特別支援学級支援員】（学校の管理職等の評価） A 大いに役立っている … 155人 B 役立っている … 5人 C あまり役立っていない … 0人 D 役立っていない … 0人 【ひまわり相談室におけるガイダンス相談（3ケース）の効果】 （相談児童生徒の担任の評価：10段階【低い1～高い10】） 評価平均点 … 9

研修会の実績	【学校生活支援員研修会】…年間11回+α 4/25・5/29・6/27・7/25・8/22・9/26 10/24・11/21・12/19・1/23・2/22 ※夏季休業中に県主催のスキルアップ研修に2日間参加 【特別支援学級支援員】…年間5回 4/19・6/8・7/13・11/9・2/13 【特別支援教育コーディネーター研修会】…年間8回 4/14・5/23・6/20・7/11・8/22 10/10・11/24・2/16
---------------	---

〔基本事業 1 1〕 地域とともにある学校づくりの推進

1 1-1 コミュニティ・スクール推進事業

1. コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度、以下CS）の制度概要

学校が地域住民や保護者と教育目標を共有し、組織的・継続的な連携を可能とする「地域とともにある学校」への転換を図るための仕組みである。

- 主な3つの機能 ①校長が作成する学校経営に関する基本方針を承認する。
 ②学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができる。
 ③職員の任用について、教育委員会に意見を述べるができる。

・小中学校における導入率（基準日：令和5年5月1日）

区 分	全 国	佐賀県	佐賀市
導入率	52.3%	46.3%	26.4%

・佐賀市における設置状況（小学校…10校 中学校…4校）

赤松小、北川副小、城南中、松梅校（小・中）、西与賀小、富士校（小・中）、大詫間小、久保泉小、
 本庄小、金立小、若楠小、金泉中 計 12 協議会 14 校

2. 令和5年度の実施

(1) CS設置校

- ・金泉中に新設置
- ・西与賀小、大詫間小に再設置（3年間の設置期間終了による再設置）
- ・各校は学校運営協議会を年間4～6回開催し、教育委員会はオブザーバーとして参画

(2) CS未設置校（設置検討校）

- ・学校長ヒアリングと制度説明を実施
- ・令和6年度からの新設置〔川上小、城西中、諸富校区（諸富中・諸富北小・諸富南小）〕に向けて、学校職員による準備委員会の開催や地域への説明を支援

(3) 社会教育課との連携

- ・CS設置校、CS未設置校、地域教育コーディネーター、地域学校協働活動推進員配置校などの現状について情報共有
- ・CS未設置校への説明・研修会参加（共同開催）

〔基本事業１２〕教職員の資質・能力の向上・活性化

１２－１ GIGAスクール構想実現に向けた教職員の資質・能力の向上

令和５年度 事業実績

項 目	内 容
事業概要	教職員の実践的指導力向上や意識高揚のための効果的な研修の実施、相談支援の充実を図る。特に ICT（１人１台のパソコン等）を活用した授業研究を行い、研究成果の研修会を実施することで、教職員一人一人の授業力の向上を図る。
実績内容	(１) 教育情報化推進リーダー研修 ○ 第１回教育情報化推進リーダー研修会 期日 令和５年６月２６日（月）１５：４０～１６：４０ 場所 大財別館 ４－１・４－２会議室 内容 研修計画、ICT 機器の利活用について ○ 第２回教育情報化推進リーダー研修会 期日 令和５年８月３日（木）１３：３０～１６：３０ 場所 南川副小学校 内容 デジタルドリルの活用について ○ 第３回教育情報化推進リーダー研修会 期日 令和５年９月２６日（火）１５：３０～１６：３０ 場所 オンライン方式 内容 デジタルドリルの活用について ○ 第４回教育情報化推進リーダー研修会 期日 令和５年１０月２７日（金）１５：３０～１６：３０ 場所 オンライン方式 内容 情報セキュリティについて ○ 第５回教育情報化推進リーダー研修会 期日 令和５年１２月５日（火）１５：３０～１６：３０ 場所 オンライン方式 内容 生成ＡＩについて ○ 第６回教育情報化推進リーダー研修会 期日 令和６年１月２５日（木）１５：３０～１６：３０ 場所 オンライン方式 内容 １人１台端末の活用（授業編）について ○ 第７回教育情報化推進リーダー研修会 期日 令和６年２月１６日（金）１５：００～１６：３０ 場所 オンライン方式 内容 佐賀市教育研究所所員 授業実践等の事例紹介 著作権について (２) 各学校での ICT 活用研修 ○ ICT 支援員等が講師を務め、各学校で必要とされている ICT 機器やソフトウェアの活用方法等に関する研修会を随時実施 ○ ICT 機器の活用が進んでいない教職員を対象として、ICT を活用した指導力のボトムアップ

	(3) 実態調査の実施 ○ 学校における教育の情報化の実態等について全小中学校の教職員を対象としたアンケート調査 ○ アンケート結果を集計、分析し、教職員の教材研究、指導の準備、評価、校務などに ICT を活用する能力や、授業に ICT を活用して指導する能力についての現状を把握
--	--

〔基本事業 16〕 働き方改革の推進

16-1 休日部活動の地域移行推進

1. 経緯

- ◆学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について（R2.9 文科省）
 - ・ R5 年度以降、休日部活動の段階的な地域移行を図るとともに、
望まない教師は休日部活動に従事しない。
- ◆運動部活動の地域移行に関する検討会議（R4.6 スポーツ庁）
- ◆文化部活動の地域移行に関する検討会議（R4.8 文化庁）
 - ・ R7 年度末を目途に休日部活動を地域移行

2. 令和5年度の取組

(1) 学校・庁内連携

- ・ 令和5年4月から部活動コーディネーター（前中学校長）を教育総務課に配置
- ・ 庁内連携調整会議を設置

(2) 実証実験

- ・ 目 的：地域展開に向けた課題検証のため、3 パターンの実証実験を実施
- ・ 内 容

- ① **地域連携型モデル（単独校型）**：城西中男子バレーボール部
休日部活動の指導主体を地域指導者（地域人材及び兼職兼業承認を受けた教員）に移行
 - ② **地域連携型モデル（複数校型）**：諸富中・城西中・東与賀中サッカー部
休日における合同部活動を中心に、指導主体を地域指導者に移行
 - ③ **地域クラブ活動型モデル**：北山校カヌー部
市内中学生が休日に参加している民間活動支援・広報協力による効果・課題を検証

3. 教職員・中学生へのアンケート

(1) 教職員アンケート（5月実施、回答者310名）

現在の指導実態、地域展開後の活動への関わり方等を尋ねた。

(2) 中学生アンケート（10月実施、回答者4,561名）

現在の活動状況、生活実態、地域展開後の活動に期待する内容等を尋ねた。

4. 佐賀市部活動地域展開会議

- (1) 佐賀市立中学校の休日等における部活動の地域展開のあり方について協議するため、会議を設置
- (2) 委員12名（学識経験者、保護者代表、地域スポーツ関係団体役員、中学校長 等）
- (3) 開催状況 第1回：8月23日、第2回：11月22日、第3回：2月16日
- (4) 今後の「地域展開の方向性」

- （方向性1）学校部活動としての活動量・内容の見直し
 - （方向性2）多様なクラブ・スクールへの生徒参加の円滑化
 - （方向性3）“地域型クラブ”の立ち上げ・運営に対する支援

佐賀市立図書館の概要（令和5年度）

図書館

1 利用時間と休館日

施設名	利用時間	休館日
本館 大和館 諸富館 東与賀館	火曜日～土曜日 10:00～19:00 日曜日・祝日 10:00～17:00	・月曜日（祝日で開館の場合は翌平日） ・館内整理日（原則、12月を除く毎月最終木曜日） ・年末年始:12/29～1/4 ・特別整理期間:5/25～6/1
富士館	火曜日～土曜日 10:00～18:00 日曜日・祝日 10:00～17:00	・台風による臨時休館（本館・東与賀館以外）: 8/9 ・公民館の空調工事による休館（高木瀬分室）: 11/15～12/13 ・電算更新による休館（全館）: 1/26～1/31
三瀬館 川副館 久保田館 分室 （開成・金立 鍋島・高木瀬 本庄・巨勢）	火曜日 12:00～17:00 水曜日～土曜日 10:00～17:00	・日曜日・月曜日・祝日 ・館内整理日（原則、12月を除く毎月最終木曜日） ・年末年始:12/29～1/4 ・特別整理期間:5/25～6/1 ・台風による臨時休館（本館・東与賀館以外）: 8/9 ・公民館の空調工事による休館（高木瀬分室）: 11/15～12/13 ・電算更新による休館（全館）: 1/26～1/31

2 年度別利用統計

年 度		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	(R5/R4)
本館入館者数（人）		437,558	322,529	354,927	360,625	377,284	105%
貸出サービスを利用した 市民の数（人）		26,251	22,140	23,146	22,839	22,432	98%
貸 出 点 数 (点)	本 館	1,011,400	917,705	994,543	950,201	892,935	94%
	大和館	160,203	153,417	162,284	146,317	152,471	104%
	諸富館	57,934	56,029	59,425	56,235	51,591	92%
	東与賀館	60,013	47,779	49,779	47,079	45,258	96%
	富士館	26,411	22,783	22,514	20,342	16,579	82%
	三瀬館	11,008	8,740	7,164	6,690	5,431	81%
	川副館	27,303	23,489	23,708	21,065	17,510	83%
	久保田館	－	17,472	23,900	22,136	21,325	96%
	自動車図書館・ 本館団体貸出	18,978	18,468	19,410	17,659	15,037	85%
	開成分室	32,510	25,993	28,247	23,451	23,256	99%
	金立分室	34,715	31,253	32,329	26,639	23,565	88%
	鍋島分室	48,190	37,764	46,810	46,400	42,177	91%
	高木瀬分室	55,169	48,223	46,657	43,715	37,760	86%
	本庄分室	37,987	42,438	44,610	42,722	40,368	94%
	巨勢分室	33,623	29,019	30,811	30,813	27,987	91%
	合 計	1,615,444	1,480,572	1,592,191	1,501,464	1,413,250	94%
資料所蔵数（点）		777,336	791,581	794,912	786,236	782,972	100%
予約点数（点）		169,013	164,738	182,601	181,767	184,543	102%
レファレンス件数（件）		36,701	30,465	31,855	31,595	32,095	102%
本館開館日数		282	274	289	289	286	99%
本館入館者／日（人）		1,552	1,177	1,228	1,248	1,319	106%
貸出点数／日（点）		5,729	5,404	5,509	5,195	4,941	95%
予約点数／日（点）		599	601	632	629	645	103%
レファレンス件数／日（件）		130	111	110	109	112	103%
図書館費決算額（千円）		470,398	486,464	492,997	507,212	632,618	125%
うち資料購入費（千円）		66,334	58,995	58,238	56,019	56,997	102%

新しい図書館「SAGA LIBRARY PARK」の方向性

令和5年新春記者会見で、佐賀市立図書館の改修方針を発表

みんなのライブラリーパーク、はじまる。

新・佐賀市立図書館

SAGA LIBRARY PARK

佐賀市立図書館：

図書館なのに、公園みたいに過ごせる場所。

新しくなる市立図書館は、そんな考え方で進めていきます。

本を楽しめる、本がもっと好きになる、という図書館らしさを真ん中に、
たのしくなるようなコンテンツや、建物の外に広がる大きな芝生。

すべて、この場所を訪れる市民のみなさんに、

自由に、のびのびと、気持ちよい時間を過ごしてもらえるようにします。



求められる図書館の役割は時代とともに変化

誰もが自由にのびのびと、気持ちの良い時間を過ごせる

家庭や職場以外の第3の居場所 = サードプレイスを目指す

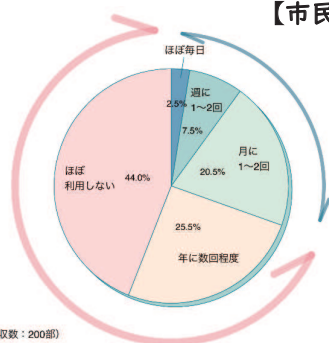
これまでの経過と今後の計画

【令和5年度】 基本構想・基本計画の策定

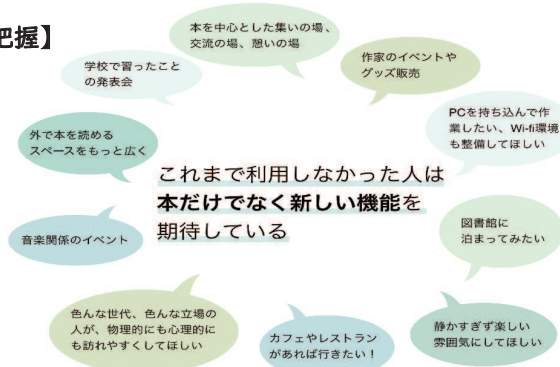
約7割の市民が「行ってみたい」図書館にすることが大切

約7割の方が
図書館をほとんど
利用していない！

【市民ニーズの把握】



街頭ヒアリング（回収数：200部）



サブタイトル： **本を好きにさせてくれる体験にあふれた図書館**
「モノや場をつくる」発想より、「訪れる人の体験を豊かにする」発想を大事にする。

【令和6年度】

- | | |
|----------------------------|--------------|
| ○基本構想・基本計画素案に対するパブリックコメント | ○設計業務（基本設計） |
| ○利活用に関する民間事業者からの聞き取り | ○各種補助金等の調査研究 |
| ○工事中の運用方針の検討（サービス提供のあり方など） | |

【令和7年度以降】

- | | | | |
|------------------|-------|-------------|-----|
| ○設計業務（基本設計、実施設計） | ○改修工事 | ○工事期間中の特別運用 | ○開館 |
|------------------|-------|-------------|-----|

ライブラリーパークの具現化に向けて

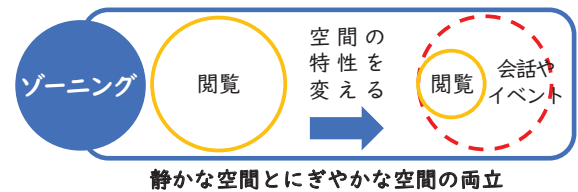
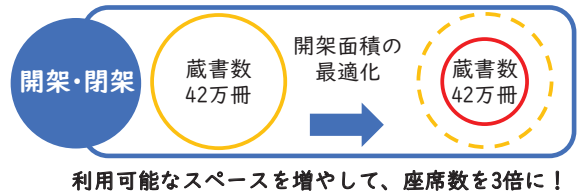
◎ 整備の方向性

- **誰もが**：誰もが来たくなる、誰もが利用できる
- **自由に**：自由に入出りできる、自由に使える
- **のびのびと**：ゆとりをもって過ごせる、安心して過ごせる

◎ 具体的な実施事項

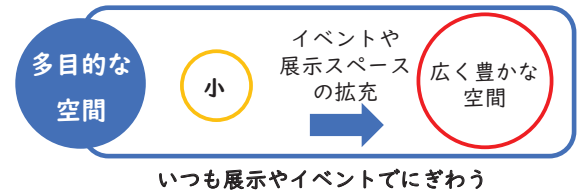
○ 空間にゆとりをもたせる

- ・ 開架率を調整し、ゆとりあるスペースを確保
- ・ 色々な椅子やベンチでくつろげる
- ・ ゾーニング（区域分け）による
静かな空間とにぎやかな空間の両立
- ・ いつも展示やイベントでにぎわう



○ 機能性を向上させる

- ・ くつろげる場と集中できる場の両立
- ・ 木材に包まれた、あたたかい空間
- ・ 屋外との一体感が感じられる空間（出入口の改善等）
- ・ ICタグ等のデジタル技術で利便性を向上
- ・ 飲み物の持ち込みOK（持ち込みエリアを設定）



新しい市立図書館本館のイメージ

SAGA LIBRARY PARK

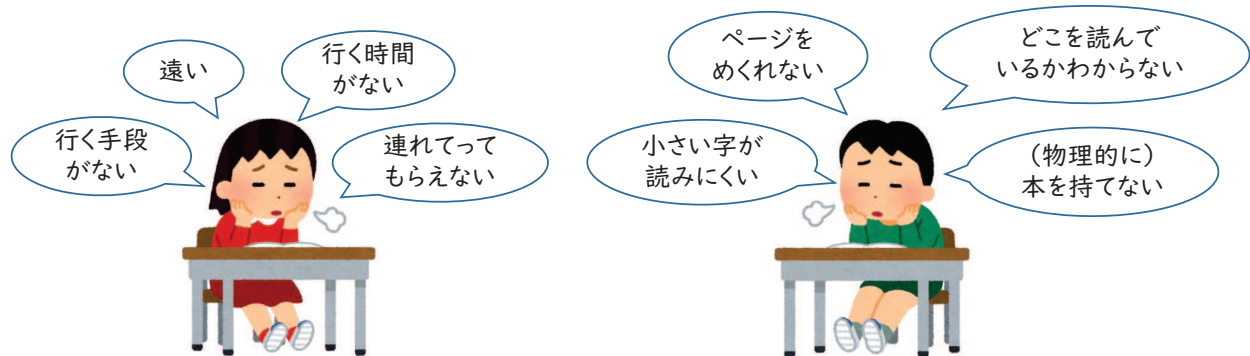
「本を好きにさせてくれる体験にあふれた図書館」



何度でも来たくなるような **ワクワクがある空間** に。

なぜ電子図書館サービスを始めたのか？

図書館を訪れたり、紙の本を利用することが難しい子どもたちにも、気軽に読書に親しんで欲しいという思いからです。



電子図書館のメリット

❁ インターネット環境があれば、いつでも・どこでも、電子書籍を借りたり読んだりできます。

❁ 音声読み上げ機能や文字拡大機能によって、バリアフリーな電子書籍が利用できます。

※音声読み上げや文字拡大に対応した電子書籍と対応していない電子書籍があります。

❁ 自治体や図書館がデジタル化した行政資料や郷土資料等も閲覧できます。



どんな電子書籍を、誰が利用できるのか

❀ 利用できる電子書籍と利用できる人

- ▶ 郷土資料・行政資料など：約1,000点 → 誰でも利用可能
- ▶ 子ども向け資料：約600点 → 佐賀市立図書館の利用登録者
佐賀市立小中学校の児童生徒・教職員

市や図書館がデジタル化した 郷土資料・行政資料・市民の学習成果等	子ども向けの資料 (商用電子書籍※)
・佐賀市史や旧町村史、古い地図などの郷土資料 ・環境教育に役立つ資料や、子ども向けの文化財パンフレット、県が公開しているデジタル図鑑 ・「佐賀の昔話」の動画コンテンツ ・「手づくり絵本コンクール」「調べる学習地域コンクール」の優秀作品等	・読み物を中心とした約600点の電子書籍 ⇒ 昔話・童話の音声・動画コンテンツ33点を含む ⇒ 「読み放題の電子書籍」150点は、同時に複数人で利用可能

※出版社が発行し、佐賀市立図書館が使用権を購入した電子書籍

紙の本と電子書籍の比較

- ❀ 現実の図書館と電子図書館、紙の本と電子書籍には、それぞれ特性があります。
「どちらかだけ」ではなく、どちらも活用していくことが大切だと考えています。

	電子図書館・電子書籍	現実の図書館・紙の本
利用できる 場所や時間	・インターネット環境に接続した端末があれば、いつでも、どこでも利用できる	・図書館の開館時間内に現地で利用
利用しやすさ	・紙の本が使いづらい(めくりにくい、小さい字が見えにくい)人も利用しやすい ・来館が困難な人でも利用しやすい	・インターネット環境や端末は不要 ・コンピューターリテラシーは不要
利用できる 資料の数	・紙の本より利用できる資料が少ない ・複数の人が同時に閲覧できる資料もある	・電子書籍より利用できる資料は多い ・複数の人が同時に閲覧できない
資料にかかる コスト	・紙の本より高額 ・利用期限や利用回数に制限あり	・電子書籍より安価 ・汚破損がなければずっと使える
その他	—	・身体的な感覚(本をめくる、書架の間を歩く、思いがけない本と出会う、ゆっくり自分の時間を過ごす等)を楽しめる

令和5年度「子どもへのまなざし運動」事業報告

令和5年度重点事項	1 出前講座・研修会等での周知 ・各種地域団体、大学等(14回・745 名) ・小中学校で実施する家庭教育講座(49校) 2 他団体等との連携 ・「子ども110番の家」のぼり旗にまなざしマーク掲載(佐賀市防犯協会) ・子育て世帯への周知啓発「児童虐待防止月間」(民生委員・児童委員) ・ICTを活用した見守りサービス「見守り人アプリ」の周知 (青少年健全育成連合会、まなざし育成委員等) 3 子どもへのまなざし運動「大人の行動指針」の見直し ・分科会(家庭、地域、企業等、学校等、合同分科会)																									
I 市民の認知度や関心を高めるための取り組み	1 出前講座の実施(再掲) 2 啓発グッズの活用 ・のぼり旗、ベスト、帽子、クリアファイル等を地域、企業、学校等へ配布 3 テーマソング「まなざしアーチ」の活用 ・まなざしアーチダンスお手本動画制作 ・佐賀駅バスセンター内で通勤時間帯に定期放送 ・サガ・ライトファンタジーオープニングパレード参加																									
II 市民が運動に共感し、実践に繋げるための取り組み	1 企業等への実践活動を促すための取り組み ・まなざし運動参加企業に取り組み状況アンケート実施 ・まなざし休暇の取得促進(参加企業、佐賀市労政だより) 2 各地域、学校、企業等で取り組まれている活動の情報発信 (1) 第16回子どもへのまなざし運動推進大会開催 ・「まなざしアーチダンス」、「まなざしキラリ大賞受賞団体取組み発表」 (2) 「まなざし放送局」(地元FM局) ・まなざしキラリ賞受賞者を中心に、まなざし運動に関わりのある大人が出演し、思いを届ける番組(12月(全4回)放送) (3) ホームページ、情報誌(フリーペーパー)等を使った情報発信 3 運動に顕著な功績があった個人・団体を「まなざしキラリ賞」として表彰 <table><tr><td>個人</td><td colspan="3">高柳 茂樹(日新)</td></tr><tr><td>団体</td><td colspan="3">高木瀬まちづくり協議会子ども見守り部会(高木瀬)</td></tr><tr><td rowspan="3">個人 (9)</td><td>藤瀬 常夫(赤松)</td><td>堤 榮(兵庫)</td><td>中地 重俊(兵庫)</td></tr><tr><td>森 昌道(芙蓉)</td><td>相澤 浩(開成)</td><td>諸隈 勝(開成)</td></tr><tr><td>大坪 郁(川上)</td><td>野田 吉照(川上)</td><td>湊田 清(川上)</td></tr><tr><td rowspan="2">団体 (3)</td><td>吉田園芸(川上)</td><td colspan="2">佐賀八戸溝郵便局(その他)</td></tr><tr><td colspan="3">西川副まちづくり協議会安全安心部会(西川副)</td></tr></table> 4 社会教育課まなざし運動関連事業 ・地域学校協働活動推進事業、家庭教育支援事業、子ども・若者支援事業、非行防止対策事業、社会教育助成事業等	個人	高柳 茂樹(日新)			団体	高木瀬まちづくり協議会子ども見守り部会(高木瀬)			個人 (9)	藤瀬 常夫(赤松)	堤 榮(兵庫)	中地 重俊(兵庫)	森 昌道(芙蓉)	相澤 浩(開成)	諸隈 勝(開成)	大坪 郁(川上)	野田 吉照(川上)	湊田 清(川上)	団体 (3)	吉田園芸(川上)	佐賀八戸溝郵便局(その他)		西川副まちづくり協議会安全安心部会(西川副)		
個人	高柳 茂樹(日新)																									
団体	高木瀬まちづくり協議会子ども見守り部会(高木瀬)																									
個人 (9)	藤瀬 常夫(赤松)	堤 榮(兵庫)	中地 重俊(兵庫)																							
	森 昌道(芙蓉)	相澤 浩(開成)	諸隈 勝(開成)																							
	大坪 郁(川上)	野田 吉照(川上)	湊田 清(川上)																							
団体 (3)	吉田園芸(川上)	佐賀八戸溝郵便局(その他)																								
	西川副まちづくり協議会安全安心部会(西川副)																									